

令和4年度渡津小学校学校評価

評価 5: 5 思う
4: 4 1
3: 3 1
2: 2 1
1: 1 思う 思わない

A: 達成できた
B: 改善を検討
C: 早急に改善

学校教育目標 たくましく賢く心豊かな子どもの育成 スローガン～笑顔、つながる、感謝し・される子どもの育成

		評価計画					アンケート				自己評価		改善点	学校関係者評価(学校評議員)	評価結果
		中期経営目標	短期経営目標	達成のための方策	評価指標	目標値	職員	生徒児童	保護者	地域	評価ABC	結果と課題	改善案	コメント	
1	確かな学力の向上（かしこい子ども）	学ぶ力の育成	学習規律の定着	授業への姿勢(時刻・準備物)	学習の準備をしてチャイム着席がきちんとできる	4	4.5	4.1	/	/	B	・授業前に立ち歩いたり、騒いだりする児童は見られない。準備物に対して、改善が必要な児童への指導を継続させる。	・次の授業の準備をしてから休み時間に入るように全校で声がけを継続していく。	・基礎学力を定着させる取組が継続的に行われ、家庭学習の確立につながっている。 ・深い学びを目指した様々な工夫の見える授業が展開されており、児童の主体的に学ぼうという意欲を高めている。 ・読書の大切さ、楽しさを感じるための取組が図書館のみならず学校全体で行われているが、家庭での読書の習慣にはつながっていない。メディア教育との連動が必要な面もあるので、保護者への啓発も含めた別の視点での取組を期待したい。	B
2			基礎基本の定着	毎月の漢字・計算会の実施	漢字・計算会の合格率80%	4	4.9	4.2 (4.2)	4.2 (3.8)	/	A	・基礎・基本的な力は定着しつつある。書き取り会・計算会に向け、自主勉強の習慣もつきつつある。 ・学年間で取組方に違いがある。	・全体で統一したほうが良い点を共通理解した上で、スタートさせる。(例えば・・・書き取り会の出題の仕方・再チャレの合格点など)		
3			基礎基本の定着	視写タイムの実施	定期的に視写タイムに取り組んだ	4	4.1	4.4 (4.1)	/	/	B	・児童の実態に応じた取組ができている。 ・決められた時間内で、一生懸命に視写に取り組んでいた。	・学年ごとに今年度の取り組みを振り返り、来年度のやり方について共通理解を図り、実施していく。今まで作成したシートを残しておくとい。		
4				学びロードの充実	学びロードを意識させることができた	4	3.9	3.9 (3.5)	/	/	B	・児童が考えたカードを階段に掲示したことがよかった。 ・覚えることまでは求められないが、意識をして取り組むことができた。	・子どもが作成することがよかったと思うので、今後も続けていきたい。 ・作り上げるまでの時間がかかるので、自学ノートのよいものなどを利用するとうまくいくのではないか。 ・委員会や係におろして、クイズを出すなど取組を生かす方法を考えたい。		
5			考えが深まる授業を目指して45分間の授業の充実	授業の中で「めあて」と「振り返り」を位置づける	授業で「めあて」と「振り返り」を行うことができたか	4	4.0	4.3	/	/	B	・児童の評価は高いが職員の評価が低い。 ・めあてと振り返りを行うことができていない場合がある。	・今後も意識してめあて・まとめ・ふりかえりを行っていく。		
6				主体的、対話的な学びの充実	ペア学習やグループ活動で話し合い活動の充実	4	4.4	4.6	/	/	A	・ペアやグループを取り入れた学習を子どもたちは楽しみながら行っているように感じる。	・ペアやグループが有効である場面設定を行うために、活かし方を考えていく必要がある。 ・授業の中に意図的にペアやグループを組むこと以外にも、知りたい・分かりたいという欲求から友達と関わる場面を作っていく。		
7			家庭学習習慣の定着	家庭学習の充実	決められた時間ほど家庭学習に取り組んだ割合	4	4.2	3.9	4 (3.9)	/	B	・毎日の宿題はほとんどの児童がやってきている。 ・児童の取組状況の把握ができるのは、イエベン週間のときだけなので、実態をつかみにくい。	・お便りなどにより、家庭への啓発を続けていく。 ・今年度からの「健康ウィーク」を継続し、タイムコントロールができるように取り組む。高学年は意識づけできつつあるように思う。		
8			キャリア教育の推進	キャリアパスポートの利用	年間計画に沿って計画的に活用	4	4.7	4.6 (4.6)	/	/	A	・今年度は、懇談の時に保護者に見てもらい、児童の取組の様子や実態を知ってもらいよかった。 ・年間計画に沿って実施することができた。	・他校の取組でよいものがあれば参考にしていく。		
9			図書館活用教育	読書活動の充実 ・読書量と共に内容の充実	目標冊数読んだか。調べ学習など取り組んだか	4	4.6	4.5	2.7	/	B	・子どもの意識と保護者の意識の差が大きい。 ・家読週間に子どもは読んでいるが、保護者と一緒に読むことが少ない。	・保護者が読み聞かせをするとよい。特に父親が読み聞かせをすることで家庭での読書の様子が変わるのではないか。 ・図書館に行く時間を取り、学級全体への啓発を行っていくとよい。図書館に行く時間をとる。 ・読書は学力を上げていくための近道になるはず。そのことを忘れずに取り組んでいく。		
10			特別支援教育の充実	教職員が連携をとりながら、特別支援教育の改善充実を図る	教職員間で特別支援教育の連携ができたか。	4	4.6	/	/	/	A	・職員会議等を通して適切に情報の発信や共有を行うことができた。	・今後も情報交換を行う。対応する職員が抱え込まないようにチームで対応できる体制を常にとっておく。		

11	豊かな心の育成（心豊かな子ども）	思いやりの心と人権意識の醸成	自己有用感の育成	係活動・委員会・縦割り班活動の充実	渡津小の子どもは係活動や委員会活動を通して自己有用感自己肯定感が育っている	4	4.5	4.4	3.9		A	・自分の役割に一生懸命取り組んでいる児童が多い。	・適切な指導を続け、充実した活動を通して、自己有用感自己肯定感を育てていく。	・自己有用感、自己肯定感がもてる関わり方をされている。核家族が多い中、縦割班活動や地域の方と一緒に活動する機会が増えることで、心が育っていくと思う。 ・渡津三則の徹底については、日々の家庭生活で、保護者の方が模範となって実践されていくことが望ましく、定着につながると思う。	B
12				掲示物の活用 良いとこ見つけ等の実施	渡津小の子どもは友達や先生・地域の方から認めてもらっていると感じる	4	4.3				B	・各クラスとも道德や学活の授業で実施した。また、適切な場面での声掛けを心掛けた。	・日々の児童とのかかわりを大切にし、場面に応じ適切な声がけをしていく。		
13			関わりを大切に する子の育成	認め合い励まし合う集団づくりに努める	縦割り班活動やふるさと教育などのふりかえりや反省・感想を通してかかわること協力することの良さに気づいている	4	4.4	4.7	4.4		A	・いろいろなアイデアを出しながら、工夫して取り組むことができた。	・他学年や地域の方々とのふれあいを大切にして、人と関わり合うことの重要性について伝えていく。		
14			三則の徹底	あいさつ・返事・くつそろえの習慣化	挨拶や返事、くつそろえができて いる割合	4	4.1	4.4 (4.4)	2.7 (3.3)	4.4 (4.2)	B	・児童と保護者の差が大きかった。地域は比較的よい評価なので、家庭でも成果が出る工夫を考えたい。	・三則の徹底については引き続き取り組んでいく。指導に変化をつけながら、児童の意識がより改善されるようにしていく。		
15			人権・同和教育の充実	人権週間・人権の花・人権集会の取り組み 校内研修の充実	優しい関わりが増えた児童の割合	4	4.6	4.7 (4.3)	4.4 (4.3)		A	・計画通りできた。校内研修も主任を中心に充実した研修ができた。	・人権・同和教育の充実がすべての指導の根底にあることを忘れずに取り組んでいく。		
16	健やかな体の育成（たくましい子ども）	基本的生活習慣の育成	交通事故防止	交通安全教室、通学路の安全点検、下校指導	交通ルールを守っている割合	4	4.3	4.7 (4.6)	4.1 (4.0)	4.6 (4.6)	A	・大きな事故もなく、安心している。今後も登下校の指導に重点を置きながら、事故防止に努めたい。	・計画通り指導ができたので、来年度も継続させていく。マンネリ化しないように、実態に応じた工夫をしながら指導をしていきたい。	・メディアコントロールを学校側が発信していくことに対して、子どもと保護者の意識の差が見られ、家庭で話し合う時間を作っても良いのではと思う。学校での取組は充実していると思う。 ・食育の推進、体力づくりは日々の取組が大切である。校内での学習で終わってはもったいない。保護者へはバランスを考えて食事を準備しているか、児童へはバランスを考えて食べているか、引き続き、啓発を含め指導を継続させてほしい。	B
17			メディアコントロールの取り組み	テレビやインターネット、ゲームなどの時間についての指導、啓発	メディアコントロール期間にメディア接触時間を守った割合	4	4.2	4.1	2.3		B	・メディアコントロールについて児童と保護者の意識の差が大きい。今後はその原因について分析し、正しいメディアコントロールができるように指導していく必要がある。	・メディアコントロールの取組を継続させる。また、情報発信や講演会等を通して啓発をしていく。		
18		健康増進	食育の推進	食の学習の充実	バランスを考えて食事をしている割合	4	4.7	4.4 (4.4)	3.1 (3.2)		A	・どの学年でも食の学習に取り組むことができた。また、PTA育成部と連携して弁当の日の取組を通して、食について考えることができた。	・学年の実態に応じて発展的な内容となるように意識しながら取組を続けていく。		
19			体力づくり	体力調査をもとにした体育授業の改善 マラソントime、外遊びの充実	しっかり体を使った遊びをしたり、体育の授業などで体を動かしていると思っている割合	4	4.2	4.4 (4.3)	3.9 (4.3)	4.7 (4.2)	B	・マラソントimeや全校でのドッジボール大会を行うことができた。 ・前年度の体力調査をもとに各学年の課題を把握していたが、体育の授業に生かすことができなかった。	・年度当初に体力向上推進計画を確認し、各学年で体育授業を工夫したり、委員会活動と連携して、体力作りに努める。		
20	信頼される学校づくり	学校・地域・家庭・関係機関との連携	安心安全な環境	施設の点検整備 安全教室・避難訓練の実施	安全点検や防災訓練が計画的に実施できたと思う割合	4	4.9				A	・計画通り安全点検と防災訓練が実施できた。	・来年度は起震車体験を行うなど防災訓練の内容を充実させたい。 ・校舎の老朽化にともない修繕が必要な場所が増えてきているが、こまめに修繕しながら安全な環境づくりに努めたい。	・ふるさと、地域の良さを知る機会が児童に何が必要か、知りたいことは何かを把握して知らせる必要がある。 ・地域での交流の場は活性化しており、今後も継続を期待したい。 ・家庭との連携については、学校教育と家庭教育との区分を少し明確化した対策が必要と感じる。 ・学校だより等は充実しており、継続を期待したい。	A
21			関係機関との連携	地域の教育資源の活用 ・公民館との連携 ・ふるさと郷育の充実	地域教材を活用した教育を実施している割合 ふるさと のよさを知ることができたと思える割合	4	4.3	3.7 (4.2)	4 (4.0)	4.4 (4.6)	B	・引き続き感染対策を実施しながら、地域の良さを学ぶことができるよう工夫して実践できた。人材確保には引き続き努力が必要である。	・コロナ禍も落ち着きはじめ、地域との連携を再開する準備を進めていく必要がある。精査しながらよりよい交流ができるようにしていきたい。		
22			家庭との連携	各家庭との連携 学級PTA活動の実施	学校が家庭と連携に努めている と思う割合	4	4.5		4.2 (4.2)	5 (4.9)	A	・引き続き、学校だより、学級だよりで学校の状況等を丁寧にお知らせすることを心掛けた。連絡メールも保護者の方に100%の加入をしていた いている。	・適切な情報発信に今後も務めていきたい。		
23			保・中との連携	保小、小小、小中での情報交換・交流の場の設定	保小、小小、小中での情報交換・交流の場は有意義だったか	4	3.9				B	・コロナ禍ではあったが、工夫しながら交流を行うことができた。（宿泊研修、江津中授業・部活動体験、保小連絡会、江津清和養護学校との交流など） ・アフターコロナに向けて、活動、活動内容を精査しながら再開していきたい。	・引き続き改善しながら連携を続けていきたい。		
24				学校は楽しいですか（児童）	評価委員会の取組（地域）	4		4.6	4.5		A	・肯定的な意見が多かった。	・常に魅力ある学校づくりを念頭におき、改善し続けて いきたい。		